



2012年3月期 決算説明資料

2012年 5月 9日
富士ソフト株式会社



目次

P. 2	2012年3月期 業績
P. 11	中期方針
P. 15	2013年3月期 業績予想
P. 19	配当について
P. 21	組織体制について



2012年3月期 業績

● 連結業績ハイライト

売上高は、主要子会社の減収を主因に、前年同期比99.4%

◇ヴィクサスにおいて前年度の大型案件の反動減および主要顧客の投資抑制の影響により2,174百万円の減収となりましたが、単体においては業務系の受注回復を主因に2,371百万円の増収となりました。しかし、前年度下期よりマーキュリースタッフینگを持分法適用関連会社にしたことによる売上計上のマイナス要因（上期売上高1,043百万円）があり、連結売上高は前年同期比99.4%の133,912百万円となりました。

営業利益は、単体の営業利益増加を主因に、前年同期比131.8%

◇単体の売上高増加および販管費抑制による増益により、連結の営業利益は前年同期比131.8%の4,998百万円となりました。

◇当期純利益は、税金等計上により1,703百万円となりました。

（単位：百万円）

	2011年3月期 実績	2012年3月期 実績	前同差	前同比	2012年3月期 計画	計画比
売上高	134,745	133,912	△ 833	99.4%	134,000	99.9%
営業利益	3,793	4,998	+ 1,205	131.8%	4,500	111.1%
営業利益率	2.8%	3.7%	+ 0.9%		3.4%	
経常利益	3,647	4,556	+ 908	124.9%	3,700	123.1%
経常利益率	2.7%	3.4%	+ 0.7%		2.8%	
当期純利益	2,511	1,703	△ 807	67.8%	1,300	131.1%
当期純利益率	1.9%	1.3%	-0.6%		1.0%	



● 主なグループ会社売上高

(単位：百万円)

	2011年3月期 実績	2012年3月期 実績	前同差	前同比	2012年3月期 計画	計画比
富士ソフト (東証一部)	71,249	73,620	+ 2,371	103.3%	73,500	100.2%
サイバネットシステム (東証一部)	13,019	13,613	+ 594	104.6%	13,670	99.6%
ヴィンキュラム ジャパン (JASDAQ)	9,273	9,156	△ 116	98.7%	9,000	101.7%
サイバーコム (JASDAQ)	6,306	6,483	+ 177	102.8%	6,400	101.3%
ヴィクサス (非上場)	20,025	17,851	△ 2,174	89.1%	17,500	102.0%

主なグループ会社売上高のポイント

(単体業績の詳細はP.10をご参照ください)

● サイバネットシステム

C A E の主力ソフトウェア分野（機械系）の保守契約更新が堅調に推移し、前年同期比104.6%の増収となりました。

● ヴィンキュラム ジャパン

大手総合小売業グループ向け大型アウトソーシング案件を獲得したことや、複数のソリューション案件の受注などにより堅調に推移したものの、主要顧客の経営統合による運用業務減少分を補うまでには至らず、前年同期比98.7%の減収となりました。

● サイバーコム

通信ソフトウェア開発案件が縮小したものの、複合機やプリンタ、車載等の制御系ソフトウェア開発案件、ネットワークやサーバの構築・保守・運用サービス等が堅調に推移し、前年同期比102.8%の増収となりました。

● ヴィクサス

前年度の大型案件の反動減の影響や主要顧客の投資抑制により、前年同期比89.1%の減収となりました。

● 連結セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2011年3月期		2012年3月期		前同差 前同比	
	実績	構成比	実績	構成比		
売上高 合計	134,745	100.0%	133,912	100.0%	△ 833	99.4%
S I 事業	124,643	92.5%	125,351	93.6%	+ 708	100.6%
組込系ソフトウェア開発	38,865	28.8%	36,701	27.4%	△ 2,163	94.4%
業務系ソフトウェア開発	46,781	34.7%	50,074	37.4%	+ 3,292	107.0%
アウトソーシング事業	15,693	11.6%	15,056	11.2%	△ 636	95.9%
その他 S I 事業	23,302	17.3%	23,519	17.6%	+ 216	100.9%
ファシリティ事業	2,106	1.6%	1,976	1.5%	△ 130	93.8%
その他事業	7,995	5.9%	6,583	4.9%	△ 1,411	82.3%

セグメント別売上高のポイント

< S I 事業 >

●組込系ソフトウェア開発

機械制御系（自動車関連・FA）やスマートフォン関連は好調だったものの、フィーチャーフォン関連が落ち込み、組込系全体では減収となりました。

●業務系ソフトウェア開発

ヴィクサスにおいて前年度の大型案件の反動減と主要顧客の投資抑制があったものの、単体において社会インフラ系とインターネットビジネス関連が好調に推移し、業務系全体では増収となりました。

●アウトソーシング事業

ヴィクサスにおいて主要顧客のシステム保守・運用が減少したことにより、減収となりました。

●その他 S I 事業

サイバネットシステムにおいて C A E 製品の保守契約更新と単体において FSMobile 関連プロダクトが堅調に推移したため、増収となりました。

< その他事業 >

マーキュリースタッフینگ（上期売上高1,043百万円）の連結除外（2011年3月期下期より持分法適用関連会社）により、減収となりました。



連結損益計算書

(単位：百万円)

	2011年3月期 実績	2012年3月期 実績	前同差	前同比	2012年3月期 計画	計画比
売上高	134,745	133,912	△ 833	99.4%	134,000	99.9%
売上原価	103,295	102,758	△ 537	99.5%	102,500	100.3%
売上原価率	76.7%	76.7%	-			
売上総利益	31,449	31,153	△ 295	99.1%	31,500	98.9%
売上総利益率	23.3%	23.3%	-			
販売費及び一般管理費	27,656	26,155	△ 1,501	94.6%	27,000	96.9%
販管費率	20.5%	19.5%	-1.0%			
営業利益	3,793	4,998	+1,205 ①	131.8%	4,500	111.1%
営業利益率	2.8%	3.7%	+0.9%			
営業外収益	※ 1 1,620	499	△ 1,121 ②	30.8%	-	-
営業外費用	1,960	※ 2 775	△ 1,184 ②	39.6%	-	-
持分法による投資損益	193	△ 166	△ 360 ③	-	-	-
経常利益	3,647	4,556	+908	124.9%	3,700	123.1%
経常利益率	2.7%	3.4%	+0.7%			
特別利益	735	41	△ 694 ④	5.6%	-	-
特別損失	542	278	△ 264 ⑤	51.3%	-	-
税金等調整前四半期純利益	3,840	4,318	+478	112.4%	-	-
法人税等合計	992	2,360	+1,368 ⑥	237.9%	-	-
少数株主利益	336	254	△ 82	-	-	-
当期純利益	2,511	1,703	△ 807 ⑥	67.8%	1,300	131.1%
当期純利益率	1.9%	1.3%	-0.6%			

※ 1 持分法による投資利益（193百万円）を除いた数値です。

※ 2 持分法による投資損失（166百万円）を除いた数値です。

損益計算書のポイント

①営業利益（前同差+1,205百万円）

単体の営業利益の大幅増益を主因に増益

②営業外収益（前同差△1,121百万円）

営業外費用（前同差△1,184百万円）

前年に計上したシステムサービス解約収入（ヴィクサス：897百万円）と解約損（ヴィクサス：861百万円）の反動減を主因に減少

③持分法による投資損益（前同差△360百万円）

持分法適用関連会社（エース証券：△411百万円）の損失を主因に悪化

④特別利益（前同差△694百万円）

前年に計上した投資有価証券売却益（富士ソフト：489百万円、東証コンピュータシステム：166百万円）を主因に減少

⑤特別損失（前同差△264百万円）

投資有価証券評価損（ヴィクサス：89百万円）事業所閉鎖に伴う損失（ヴィクサス：146百万円）本社移転費用およびデータセンターの一部解約に伴う費用（東証コンピュータシステム：40百万円）

⑥法人税等合計（前同差+1,368百万円）

当期純利益（前同差△807百万円）

単体の増益に伴う税金計上額の増加（+503百万円）と法人税率変更に伴う増加（+363百万円）および子会社における税金額の増加（サイバネットシステム：+379百万円）



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2011年3月期 期末	2012年3月期 期末	前同差
流動資産	57,534	49,019	△ 8,515
現金及び預金	22,045	13,420	△ 8,625 ①
受取手形及び売掛金	28,385	28,364	△ 20
仕掛品	1,453	1,662	+208
その他	5,650	5,572	△ 77
固定資産	111,881	106,724	△ 5,156
有形固定資産	76,343	74,340	△ 2,003 ②
無形固定資産	11,700	9,334	△ 2,365 ②
投資その他の資産	23,837	23,049	△ 788
資産合計	169,416	155,744	△ 13,671
流動負債	55,099	40,343	△ 14,755
買掛金	7,565	7,902	+337
短期借入金・1年内返済予定の長期借入金	33,916	17,632	△ 16,283 ①
未払費用	6,087	7,281	+1,194
その他	7,531	7,527	△ 3
固定負債	30,038	30,212	+ 174
長期借入金	21,641	21,829	+187
その他	8,396	8,382	△ 13
負債合計	85,137	70,555	△ 14,581
純資産合計	73,863	74,786	+ 923 ③
負債純資産合計	169,416	155,744	△ 13,671

貸借対照表のポイント

①現金及び預金（前同差△8,625百万円）

短期借入金（前同差△16,283百万円）

前期末に不測の事態に備えて積み上げた
手元資金の圧縮と借入金の返済を進め
減少

②有形固定資産（前同差△2,003百万円）

無形固定資産（前同差△2,365百万円）

主に償却による減少

③純資産合計（前同差+923百万円）

自己株式の消却・取得による増加

● 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2011年3月期 実績	2012年3月期 実績	前同差
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,529	12,352	△ 176
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,910	△ 2,910	+ 3,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,280	△ 18,104	△ 16,823
現金及び現金同等物の増減額	5,272	△ 8,765	△ 14,037
現金及び現金同等物の期首残高	16,687	22,044	+ 5,357
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	85	-	△ 85
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,044	13,279	△ 8,765

キャッシュ・フローのポイント

●営業活動によるキャッシュ・フロー

たな卸資産の増加により前年同期と比べて176百万円減少しました。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

単体においてデータセンターの増床や夏期電力対策に伴う支出があったものの、前期にヴィクサスで投資したデータセンター等の支出、およびサイバネットシステムの子会社取得などの反動により前年同期差3,000百万円となりました。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

前期末に不測の事態に備えて借入れた手元資金の圧縮と借入金の約定返済および自己株式の取得により前年同期と比べて16,823百万円減少しました。

● 連結SI事業の受注高・受注残高

(単位：百万円)

	受注高				受注残高			
	2011年3月期 実績	2012年3月期 実績	前同差	前同比	2011年3月期 期末実績	2012年3月期 期末実績	前同差	前同比
S I 事業 合計	120,722	126,927	+ 6,204	105.1%	31,177	32,752	+ 1,575	105.1%
組込系ソフトウェア開発	39,077	36,968	△ 2,109	94.6%	7,573	7,840	+ 266	103.5%
業務系ソフトウェア開発	45,170	51,394	+ 6,223	113.8%	10,960	12,280	+ 1,320	112.0%
アウトソーシング事業	13,772	15,223	+ 1,450	110.5%	6,714	6,881	+ 166	102.5%
その他SI事業	22,701	23,341	+ 639	102.8%	5,928	5,750	△ 177	97.0%

受注高・受注残高のポイント

●受注高のポイント

組込系は機械制御系（自動車関連）やスマートフォン関連が好調に推移したものの、フィーチャーフォン関連の受注が大幅に減少したため、前年同期比94.6%となりました。業務系においては社会インフラ系が好調、インターネットビジネス関連が堅調に推移したことを主因に前年同期比113.8%となりました。アウトソーシング事業では、単体において契約年月が長期化した案件を受注したことにより前年同期比110.5%となりました。その他S I 事業では、サイバネットシステムにおいてC A E 製品の保守契約が堅調に推移したことにより前年同期比102.8%となりました。S I 事業全体では前年同期比105.1%となりました。

●受注残高のポイント

組込系はたな卸資産の増加により、前年同期比103.5%となりました。業務系では単体において損保分野で新規案件を受注したことや、ヴィクサスにおいて受注の前倒しがあったことにより、前年同期比112.0%となりました。アウトソーシング事業では、ヴィクサスにおいて主要顧客の保守・運用が縮小したものの、単体において契約年月が長期化した案件を受注したことにより、前年同期比102.5%となりました。その他SI事業はサイバネットシステムにおいて前年を上回ったものの、単体の大型プロダクト案件が売上に計上されたことにより前年同期比97.0%となりました。

※第1四半期連結会計期間より、契約上の受注残高を集計する方法から工事進行基準売上高を考慮した受注残高の集計方法に変更しております。



2012年3月期 単体業績

(単位：百万円)

	2011年3月期 実績	2012年3月期 実績	前同差	前同比	2012年3月期 計画	計画比
売上高	71,249	73,620	+ 2,371	103.3% ①	73,500	100.2%
売上原価	54,264	56,094	+ 1,829	103.4%	56,000	100.2%
売上原価率	76.2%	76.2%	-			
売上総利益	16,984	17,525	+ 541	103.2%	17,500	100.1%
売上総利益率	23.8%	23.8%	-			
販売費及び一般管理費	15,066	14,548	△ 518	96.6%	15,100	96.3%
販管費率	21.1%	19.8%	+ 1.3%			
営業利益	1,917	2,977	+ 1,059	155.2% ②	2,400	124.1%
営業利益率	2.7%	4.0%	+ 1.3%			
経常利益	2,104	3,069	+ 965	145.9% ③	2,400	127.9%
経常利益率	3.0%	4.2%	+ 1.2%			
税引前当期純利益	2,762	3,050	+ 288	110.4%	2,400	127.1%
当期純利益	2,147	1,932	△ 214	90.0%	1,500	128.8%
当期純利益率	3.0%	2.6%	-0.4%			

単体業績のポイント

①売上高 (前同差+2,371百万円)

組込系は機械制御系やスマートフォン関連が好調に推移したものの、フィーチャーフォン関連の落ち込みを補うまでには至りませんでした。業務系では社会インフラ系やインターネットビジネス関連をはじめ各分野が前年を上回ったことにより前年同期比で103.3%の増収

②営業利益 (前同差+1,059百万円)

売上の増加および販管費の抑制を主因に大幅増益

③経常利益 (前同差+965百万円)

営業利益の増益を主因に増益



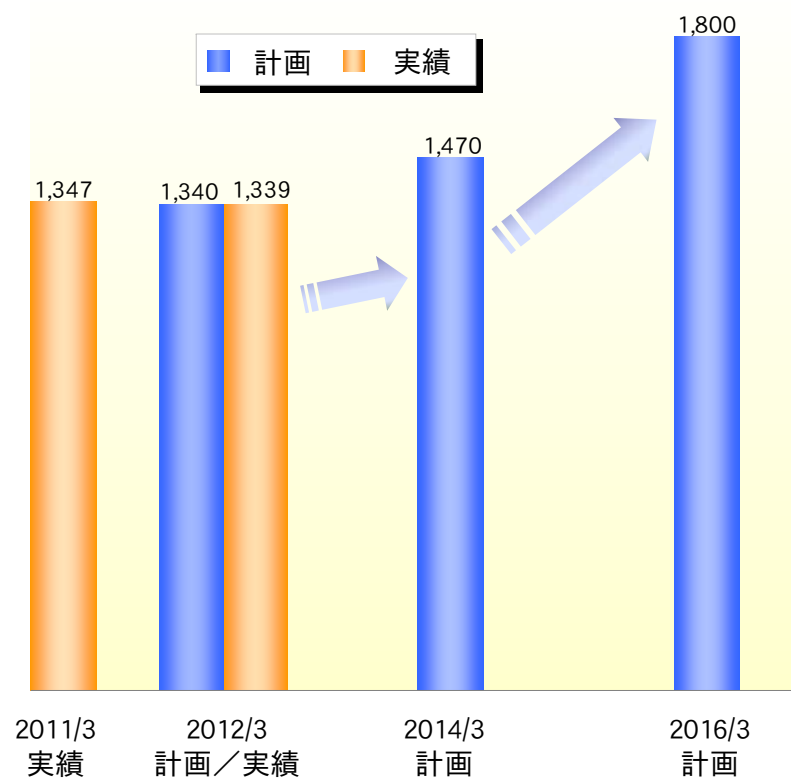
中期方針



● 中期計画

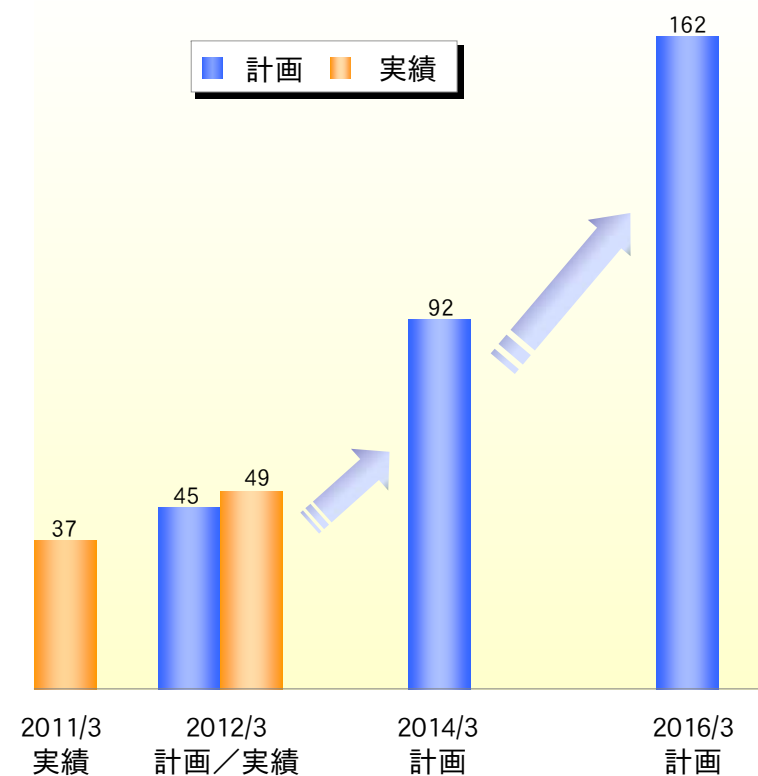
連結売上高の推移

(単位：億円)



連結営業利益の推移

(単位：億円)



● 中核戦略

3 ヵ年 重点目標 高付加価値事業構造への挑戦と創造

ICTの発展をお客様価値向上へ結びつけるイノベーション企業グループ

< 中核戦略 >

付加価値の向上

現場力強化
マーケット創出 (含 海外)
販管コスト適正化

プロダクト化・サービス化推進 (CRM)

クラウド (C) (含: ネット関連)
ロボットテクノロジー (R)
モバイル (M) (含: 様々なデバイス)

× 業種・業界・業務

グループ 資産

技術力・対応力
(組込み・業務・制御システムで
の幅広い実績と人財)

様々な蓄積資産・ノウハウ
(クラウド・センター・インフラ関連、移動体・通
信分野、電子制御・機器分野、ロボット分野、ハー
ドウェア分野 等)

幅広い業務ノウハウ
お客様基盤

環境の変化

欧州問題、円高
大規模自然災害の影響
国内外政治状況 等

グローバル競争の激化・加速

ICTの急速な発展 さらなる進歩

端末の革新 (スマートフォン、タブレット等)
クラウド、ネットサービス、高速通信の発展等

ビジネス競争力への影響力拡大

< 基本戦略 : JPPGG >

受託ビジネス基盤の強化

プライム化の推進

プロダクト化の推進

グローバル化の推進

グループ力の強化

既存事業の強化 + クラウド × RT(ロボットテクノロジー) × モバイルを軸にイノベーション

ビジネスを支える業務・制御システムの提供

ネット時代に対応する

先進ソフトウェア・ハードウェアの提供

流通業、金融業、サービス業、製造業
ネットビジネス、社会インフラ、
教育・文教、医療、官公庁 等

さらなる

- ・付加価値の向上
- ・新たなビジネスの創出
- ・競争優位性の強化

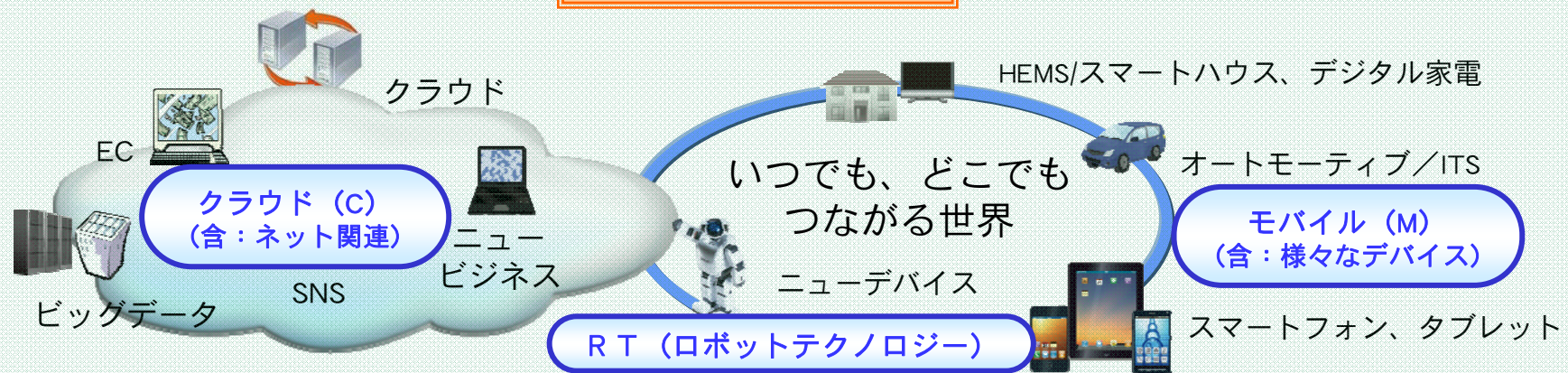
システムノウハウ・
資産

システムノウハウ・
資産

最新ICTの利用
(パブリッククラウド・独自クラウド
基盤 + SaaS + サービス・コン
テンツ連携)

主要な業界・お客様へ
国内各地域
グローバル展開
プロダクト化
サービス化

最新ICT分野におけるシス
テム対応のサポート



当社ロボットテクノロジー、プロダクト資産等による付加価値向上



2013年3月期 業績予想



2013年3月期 連結業績予想

(単位：百万円)

	2012年3月期 実績	2013年3月期 計画	前同差	前同比
売上高	133,912	137,000	+ 3,087 ①	102.3%
売上原価	102,758	105,100	+ 2,341	102.3%
売上原価率	76.7%	76.7%		
売上総利益	31,153	31,900	+ 746	102.4%
売上総利益率	23.3%	23.3%		
販売費及び一般管理費	26,155	25,900	△ 255 ②	99.0%
販管費率	19.5%	18.9%		
営業利益	4,998	6,000	+ 1,001 ③	120.0%
営業利益率	3.7%	4.4%		
経常利益	4,556	5,700	+ 1,143	125.1%
経常利益率	3.4%	4.2%		
当期純利益	1,703	2,800	+ 1,096	164.3%
当期純利益率	1.3%	2.0%		

業績予想のポイント

①売上高 (前同差+3,087百万円)

単体・子会社ともに増収の見込み

②販売費及び一般管理費

(前同差△255百万円)

管理効率の向上を図ることで削減

③営業利益 (前同差+1,001百万円)

売上高の増加及び販管費の削減による増益の見込み



● 主なグループ会社の売上高予想

(単位：百万円)

	2012年3月期 実績	2013年3月期 計画	前同差	前同比
富士ソフト (東証一部)	73,620	75,500	+ 1,880	102.6%
サイバネットシステム (東証一部)	13,613	14,000	+ 386	102.8%
ヴィンキュラム ジャパン (JASDAQ)	9,156	10,300	+ 1,143	112.5%
サイバーコム (JASDAQ)	6,483	6,660	+ 176	102.7%
ヴィクサス (非上場)	17,851	18,000	+ 148	100.8%

売上高予想のポイント

●サイバネットシステム

CAE分野において、お客様の様々な課題を多角的に分析する「マルチドメインソリューション」の推進により、事業の拡大を見込んでいます。

●ヴィンキュラム ジャパン

中国子会社のヴィンキュラム チャイナを活用し、中国市場への参入を図る日系流通サービス業へのアプローチ、流通クラウドの市場投入等、前年度に先行投資し基盤を構築した事業の拡大を見込んでいます。

●サイバーコム

通信ソフトウェア開発では携帯端末関連が縮小傾向にあるものの、制御系ソフトウェア開発での複合機やプリンタ、車載等や、ネットワーク関連のサーバの構築・保守・運用サービス等の拡大を見込んでいます。

●ヴィクサス

主要顧客のシステム保守・運用案件が縮小するものの、主要顧客において抑制されていた投資案件の獲得や新規顧客の開拓を見込んでいます。



2013年3月期 単体業績予想

(単位：百万円)

	2012年3月期 実績	2013年3月期 計画	前同差	前同比
売上高	73,620	75,500	+ 1,879 ①	102.6%
売上原価	56,094	57,400	+ 1,305	102.3%
売上原価率	76.2%	76.0%	-	-
売上総利益	17,525	18,100	+ 574	103.3%
売上総利益率	23.8%	24.0%	-	-
販売費及び一般管理費	14,548	14,300	△ 248 ②	98.3%
販管費率	19.8%	18.9%	-	-
営業利益	2,977	3,800	+ 822 ③	127.6%
営業利益率	4.0%	5.0%	-	-
経常利益	3,069	3,800	+ 730	123.8%
経常利益率	4.2%	5.0%	-	-
当期純利益	1,932	2,300	+ 367	119.0%
当期純利益率	2.6%	3.0%	-	-

業績予想のポイント

①売上高 (前同差+1,879百万円)

組込系はフィーチャーフォン関連が減収になるものの、スマートフォン関連や基地局関連などの通信制御系と自動車関連・FAなどの機械制御系が増収

また、業務系は流通業において大型案件の反動減があるものの、社会インフラ系やインターネットビジネス関連の受注が順調なことにより増収の見込み

②販売費及び一般管理費

(前同差△248百万円)

管理効率の向上を図ることで削減

③営業利益 (前同差+822百万円)

売上総利益の改善と販管費の削減による増益の見込み



配当について



● 配当について

2012年3月期 期末配当

期末配当は、期初計画通り「10円」といたします。

2013年3月期につきましても、安定的な配当の実現の方針に基づき、一株あたり20円の配当を計画しております。

■ 1株当たり当期純利益・配当金・配当性向の推移

(単位：円)

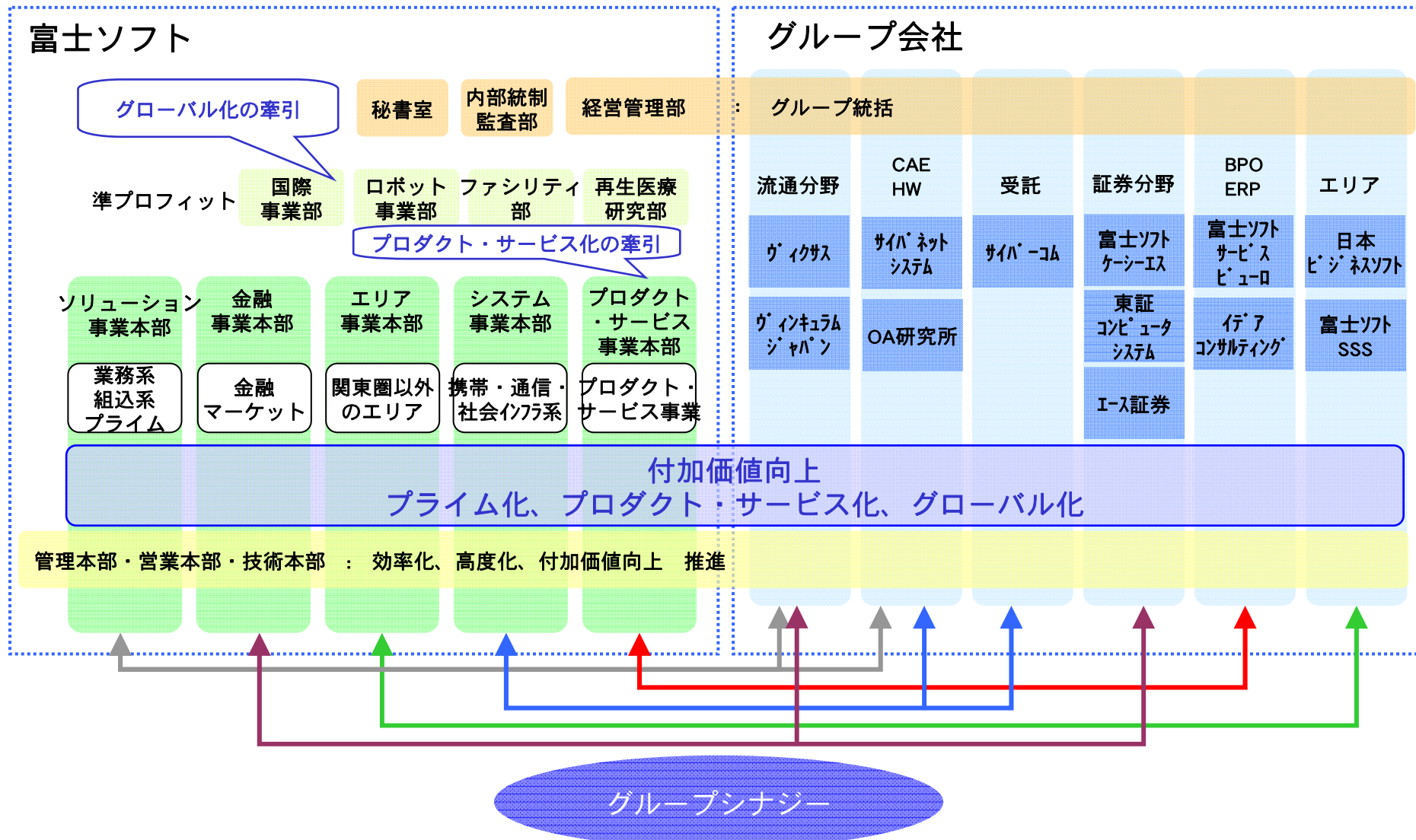
連結	2009年3月期 実績	2010年3月期 実績	2011年3月期 実績	2012年3月期 実績	2013年3月期 計画
1株当たり当期純利益	27.07	116.37	78.77	53.70	89.22
1株当たり配当金	30	15	20	20	20
配当性向	110.8%	12.9%	25.4%	37.2%	22.4%



組織体制について



組織体制について





※ 本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。
また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、あわせてご理解いただきますようお願い申し上げます。